

令和3年度版

# 小学校における 租税教育実践レポート



山形県租税教育推進協議会



# はじめに



「山形県租税教育推進協議会」は、租税教育をきわめて重要なものにとらえ、昭和 55 年 2 月、他県に先駆けて東北で最初に設立されました。これまで長きにわたり、数々の事業を着実に実施させていただいておりますことは、関係機関の皆様方のお力添えの賜であり、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 23 年 11 月に、文部科学省・総務省・国税庁の協議により発足した「租税教育推進関係省庁等協議会（中央租推協）」においては、租税教育の充実に向けた基本方針等について、毎年、継続的に協議を重ねており、「小・中・高等学校における租税教育は、教育の現場、税の専門家及び各地域の税に関する民間団体等が連携・協働して、社会全体で取り組むべきもの」として合意・確認されているところです。

当協議会におきましても、従来から積極的に租税教育を推し進めてまいりました。

租税教育は、次代を担う子供たちが、財政や租税の意義・役割を正しく理解することで、社会の仕組みを知り、感謝の気持ちを育み、いずれは税を通して社会に貢献する意識を持った大人となる契機として必要なものであると認識しております。さらに、選挙権年齢の引下げに伴い、主権者教育の重要性も高まっており、財政の状況や現代社会の諸課題を知り、税金の使われ方について関心を高め、選挙を通して自分の意思を反映させるという主権者教育としてとても大切なことであると思っております。

また、当協議会の他県に誇れる特色ある事業として、昭和 58 年から実施しております「租税教育推進協力者の委嘱」があります。これは、各教育事務所から推薦をいただいた小・中学校の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税に関する授業の実践研究を行っていただき、その指導内容を「租税教育実践レポート」としてまとめていただくものです。これまで延べ 561 名の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税教育の実践研究に携わっていただきました。このことは、本県の教育機関にとって貴重な財産であり、租税教育の充実に大きく寄与しているものと確信しております。

本書は、令和 3 年度の協力者である 5 名の小学校の先生方が作成しました「租税教育実践レポート」を集約したものです。児童・生徒が税について主体的・対話的に学んだ授業実践が報告されており、租税教育の参考となる全国でも数少ない貴重な資料となりますので、是非活用していただきたいと思います。

最後になりましたが、大変お忙しい中、実践研究と執筆をお引き受けいただきました先生方に、心より感謝を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

令和 4 年 3 月

山形県租税教育推進協議会代表幹事

山形県教育委員会教育長

菅間 裕晃

# 目次

(順不同・敬称略)

・中山町立豊田小学校	教諭	深瀬 明子	・・・・・・・・・・	1
・朝日町立宮宿小学校	教諭	稲垣 健太	・・・・・・・・・・	2
・新庄市立日新小学校	教諭	大澤 拓郎	・・・・・・・・・・	3
・米沢市立西部小学校	教諭	東海林 真	・・・・・・・・・・	4
・三川町立東郷小学校	教諭	佐々木 嘉彦	・・・・・・・・・・	5

# 思いや問いをくらしにつなげる

中山町立豊田小学校教諭 6学年 深瀬 明子

実施年月日：令和3年6月7日～7月8日 19名

## 1 実践計画・指導のねらい

本実践は、「国の政治のしくみと選挙」「震災復興の願いを実現する政治」の単元にまたいで位置づけ、税金や政治が自分たちの生活とどのように関わっているのかを感じながら、そこから生まれる子どもたちの思いや問いから学習を展開することとした。子どもたちにとって税金と言えば、一番身近なのは「消費税」であり、教科書にも税金が使われていることはよく知っている。しかし、なぜ納めることが義務となっているのか、誰が税金の使い道を決めているのかなど、子どもたちの問いは、具体的な生活場面を見つめることでつながっていくと考えられる。そしてそこから政治や社会への関心を広げ、さらには自分の生活や考え、生き方に目を向ける機会となると考えた。

## 2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・ 国民主権とは何か、具体的な場面を通して考える。	○ 「国民主権」はどんな時や場面にあらわれているのだろう。 ● みんなの考えを聞いて決めることかな。図書館の本の希望調査もだ。 ● 選挙で選ばれた人が代表として国会議員とかになるって書いてあるよ。私はみんなのことを考えてくれる人を選びたいな。 □教科書「新しい社会」(東京書籍) □NHK for School「社会にドキリ」(国民主権)
2	・ 選挙の投票率が低い理由を考え、選挙の必要性について考える。	○ 若い人の投票率はなぜ低いのか。どうすれば上がるのだろう。 ● 自分の意見を出した方がいいよ。自分たちのためにも。 ● 投票所を増やしたりネットで呼びかけたりしたらどうかな。税金の使い道も教えるって関心が向くかもしれない。わからないと「まあいっか。」って投票しなくなると思う。 □教科書「新しい社会」(東京書籍) □NHK for School「社会にドキリ」(三権の役割)
3	・ 東日本大震災の被害とその後の復旧・復興の様子から、人々の願いや思いを考える。	○ 被災した人はどのような思いや願いをいただいているのだろう。 ● もとの生活にどうやって戻れるのか不安だと思う。 ● 食べ物や住まい、お金をどうやってかせぐのか、すべてわからなくて頭が真っ白になると思う。だれかに助けてほしい。 ● とにかくお金が必要だと思う。みんなから集めた税金を使う必要があると思う。 □教科書「新しい社会」(東京書籍) □DVD 内閣府「自分の命は自分で守る―津波災害への備え―」 □NHK for School「社会にドキリ」(災害復旧と復興)
4	・ 租税教室を通して、税金の種類やその使われ方、税金への理解を深める。 	○ 税金にはどんな種類があり、どのように使われているのだろう。 ● 税金には約50種類もあるなんておどろいた。税金がなくなるとみんなの公園もなくなってしまう。税金はあってよかった。くらしを豊かにするために税金は必要だとわかった。日本は助け合って生きていると思った。 ● 大切な税金の使い道を決めるのは国民だから、その代表である議員を選ぶ選挙の投票率が低いと、自分の意見や人々の願いが届けられなくなる。ぼくは選挙に行こうと思う。 □中山町住民税務課 税務グループによる租税教室 □DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 □副教材「わたしたちのくらしと税金」

【指導のポイント】◀1時間目▶

映像を通して、今まで気づかなかった身近なところに国民主権はあり、その大切さを感じていた。

【指導のポイント】◀2時間目▶

年代別で投票率を提示することで、問いが生まれ、これからどうすればいいかという思いにつなげることができた。

【指導のポイント】◀3時間目▶

写真や映像を見ることで、震災からの復旧・復興にどのくらいの税金が使われたのか、どのような協力があったのか、自分から問いをもって調べたり、被災した方々への思いを膨らませ、自分の生活と照らし合わせて考えたりすることができた。

【指導のポイント】◀4時間目▶

税金がない生活を知ることで、その価値を改めて感じることが子どもたちのふり返りの言葉にも出ていた。



## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ デジタル教材や具体的な場面、数値を提示することで、子どもたちの思いや願い、問いがふくらみ、それらをどのように解決したらよいのか自分事として考えることができていた。様々な考えを共有する場面や自分の思いを表現する場面を確保することも関心を高めることにつながった。
- ◎ 単元にまたいで大きくとらえ、自分の生活とかかわらせて考えることで、社会の流れや仕組み、自分の意見をもって行動することの大切さに気づいていたことが、子どもたちのふり返りの言葉からも感じられた。
- ◆ これからの税金や社会のあり方、諸外国の事情など、子どもたちの問いが深まるよう、時間の確保をしつつ家庭での調べ学習などに発展させられると感じた。子どもたち同士での語り合いなども積極的に取り入れればよかった。

# 朝日町と税金 ～SDGsの観点から～

朝日町立宮宿小学校教諭 6学年 稲垣 健太

実施年月日：令和4年1月20日～1月31日 20名

## 1 実践計画・指導のねらい

本学級では、総合的な学習の時間に、単元名を「朝日町とSDGs ～2030年までわたしたちにできること～」とし、SDGsについて学習している。その中で、2030年の朝日町の姿について考えるという学習を継続して行ってきた。今回の税の学習は、総合的な学習の時間の本単元と、社会科の税の学習が含まれる単元をカリキュラムマネジメントし、合科的に学習した。子ども達は、理想のまちづくりについて考える機会はあるものの、金銭面についてまで考えを及ぼす機会はなかなかない。政策を実現するためには、財政面も切り離せない問題であることを理解し、自分達の提案を実現させるために、税金をどのように使えばよいかを考える。また、「朝日町予算説明書」を資料として用い、税金が実際に町民の暮らしに生かされているということを実感させることをねらった。

## 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・租税教室で税の使い方についての基礎知識を学ぶ。【租税教室】 	○ <u>もし税金がなかったらみんなの生活はどうなると思いますか。</u> ● 消火活動にも料金がかかってしまう。 ● 当たり前になっていることが、当たり前でできなくなってしまう。 ● 税金は私たちの生活に不可欠なものなんだね。 □使用教材名 ・DVD (マリンとヤマト 不思議な日曜日) ・1億円レプリカ
2	・朝日町ではどのようなことに税金を使っているのかを調べる。 	○ <u>朝日町では、どんなことに税金が使われているのでしょうか。</u> ● 朝日町の令和3年度予算は約53億円なんだね。 ● コロナワクチンにも税金が使われているよ。 ● ゼロカーボンシティの実現に向けて440万円使われているね。 □使用教材名 ・令和3年度朝日町予算説明書 ・令和2年度朝日町予算説明書
3	・SDGsの観点から、朝日町ではどのようなことに税金を使っていけばよいかを考える。 	○ <u>朝日町では、どのようなことに税金を使えばよいと思いますか。</u> ● 家事や育児をしている女性が、子ども連れでくつろげるカフェのような場所をつくつたらいいと思う。 ● 朝日町にも駅をつくれれば、SDGs 11の住み続けられるまちづくりができると思う。1億5000万円くらいかな。 ● 農作物の鳥獣被害を減らすための対策に使っていけば、農家の皆さんが助かるんじゃないかな。 ● 若者も住みたいと思えるように、お店を増やしたい。
4	・税の絵葉書を描き、税金について考えたことを表現する。 	○ <u>学んだことを生かして、絵葉書を書きましょう。</u> ● 「持続可能な社会」という言葉を入れようかな。

### 【指導のポイント】<<1時間目>>

「もし税金が無くなってしまったら」と仮定して考えることで、いかに不自由な生活になってしまうかをイメージすることができた。視聴覚教材や1億円レプリカ等を使いながら租税教室を実施していただいたことで、税に対する興味が深まった。

### 【指導のポイント】<<2時間目>>

資料「朝日町予算説明書」をタブレットで参照し、税金が実際にどのように使われているのかを調べた。本校体育館の天井工事やコロナウイルスのワクチン接種などにも税金が使われていることを知り、税金をより身近に感じる事ができた。また、SDGsの観点から税金の使われ方を見直す様子も見られた。

### 【指導のポイント】<<3時間目>>

総合的な学習の時間に町議会議員の方と交流する中で、人口減少が朝日町の喫緊の課題であることを学んだ。そのため、住み続けられるまちづくりやジェンダーの平等に関する対策が多く考えられた。前時に予算書を参照したことから、子ども達なりに具体的な金額を考える姿も見られた。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 租税教室を実施し、朝日町役場税務町民課の方にお話し頂いたことで、より専門的なところまで税に対する理解が及んだ。
- ◎ 朝日町から出ている資料（町報や予算説明書）を活用したことで、身近な問題として税金を捉えることができた。
- ◎ 総合的な学習の時間とのカリキュラムマネジメントにより、税について学ぶ必要感を高めることができた。
- ◎ タブレット端末があることにより、教師が印刷をして配付しなくても、様々な資料をPDF等で手軽に参照することができた。
- ◆ 教科書改訂に伴い、社会科における税金の学習が春に移行した。カリキュラムマネジメント等で、単元配列を工夫する必要がある。
- ◆ 学んだことを発信する活動を取り入れると、より学びの必要感が高まると感じた。

# 私たちのくらしと税金～なぜ、選挙に行くのか～

新庄市立日新小学校教諭 6学年 大澤 拓郎

実施年月日：令和3年10月18日～29日 25名

## 1 実践計画・指導のねらい

選挙は、国民生活に関わる法律や予算（税金の集め方・使われ方）の議決権をもつ国会議員（都道府県・市区町村議会議員）を選ぶ、即ち税金の使い道について自分の意思を反映させる最も重要な機会である。しかし、選挙権年齢を18歳に引き下げた改正公職選挙法（2016年）の施行後、4度の国政選挙が行われたが、いずれも若年層の投票率は極めて低い。学級の児童対象に選挙に関するアンケートを実施しても、大多数は「選挙に行く」と回答するが、その理由や目的を問うと不明瞭な場合がほとんどで、選挙や税金に対する理解や考えが浅いと感じられる。本実践において、まず税金と日常生活との関わりやその必要性を理解し納税者としての意識を高めたい。その後、自治体や国の財政の様子を考察したり選挙で投票することの是非を話し合ったりする活動を通して、税金の集め方や使い方を最終的に決めるのは、他ならぬ自分たち一人ひとりだということを認識させる。そして、児童一人ひとりが選挙権を得る近い将来、主権者として投票を通じて自分の意思を政治に反映させるとともに、納税者として将来にわたって主体的に税に関心をもち携わり続けようとする態度を育てたい。

## 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・新庄市地域子育て支援センター「わらすこ広場」がつけられるまでの経緯や、今日の管理・運営の仕組みについて知る。	○ 「わらすこ広場」はどのようにしてつくられたのだろうか。 ● 自分も幼いころに利用したことがある。 ● 建設や運営には、市役所や市議会が関わっているんだね。 ● 無料で利用することができるけれど、その分のお金はどこから出ているのだろうか。 □使用教材名 新庄市議会だより No. 147（令和元年2月12日付）
2	・租税教室を通して、税金の集められ方や使われ方について理解を深める。	○ 税金はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。 ● 道路や警察・消防、教育にいたるまで、たくさんのお金が使われている。税金がないと今の暮らしが成り立たなくなってしまう。 □使用教材名 法人会による租税教室 
3	・「財政」の役割を理解するとともに、新庄市の令和3年度当初予算の歳入と歳出の内訳から、市の財政の特色を捉え自分の考えをもつ。	○ 新庄市の財政にはどのような特色があるのか。 ● 社会福祉や教育に多くの予算が割り当てられている。 ● 集められた多くの税金が使われているけれど、それだけでは足りていない。 ● 新庄市は今後どんなことに税金を使っていくべきなんだろう。 □使用教材名 広報しんじょう No. 760（令和3年4月8日付）
4	・若年層の投票率低下の問題点や選挙を通じて政治に参加する意義について、税金の使い道と関連させながら考察する。 	○ 若者は選挙に行く必要があるのだろうか。 ● 子どもや若い人にもっとお金をかけるべき。そのために若者がもっと選挙に行くと政治を動かさない。 ● みんなが税金を納めているんだから、みんなが平等に豊かになれるような税金の使い方をしないとイケない。 □使用教材名 総務省、財務省、国立社会保障・人口問題研究所が提供する各種統計（年代別投票率の推移、一般会計当初予算、社会保障給付費の推移・内訳等）を基に指導者が用意した資料 社会科資料集6年（青葉出版） YouTube【若者よ、選挙に行くな】（たかまつななチャンネル）

### 【指導のポイント】<<1時間目>>

児童にとって馴染みのある身近な公共施設を扱った。管理や運営に多額の費用がかかる一方で市民は無料で利用できることから、それらの疑問をもとに税金への関心を高めることができた。

### 【指導のポイント】<<2時間目>>

税金に関するクイズやVTRの視聴を通じて、税金の役割や種類、基本的な仕組みを理解した。「もし税金がなかったら」と仮定して考えることで、税金と日常生活との関わりやその必要性を実感させることができた。

### 【指導のポイント】<<3時間目>>

新庄市の広報に掲載された一般会計予算の内訳を資料として、市の財政の様子を考察した。税金が市民生活に役立てられていることに気付くだけでなく、税金以外の財源に頼らざるを得ない現状に触れたり、税金の使い道に対する自分の意見をもったりすることができた。

### 【指導のポイント】<<4時間目>>

若年層の投票率低下の問題点について、国の予算分配や政治の方向性などと関連させながら各種資料を根拠に考察させた。「選挙に行くと投票する」＝「税金の使い道について自分の意思を反映させる」ことでもあることを理解し、政治についてより自分事として考える児童の姿が見られた。

## 3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 市広報や市議会だよりをもとに、自らが住む市の実際の税金の使われ方を調べる活動を通して、税金を身近なものとしてその必要性に気付くことができた。
- ◎ 望ましい税金の使い方について自分の考えをもつとともに、選挙によって自分の意思を反映させようとする政治参加への意欲を高めることができた。
- ◆ より具体的・客観的な根拠をもった自分の考えを構築し表現するために、情報収集したり資料を分析したりする力を今後も継続して高めていく必要がある。
- ◆ 市議会を傍聴したり、市に対する自分の考えを提案したりするなど、各機関と連携した学習計画が組めると、さらなる社会参画の意識向上が期待できる。

## あなたは誰の意見を支持しますか??

米沢市立西部小学校教諭 6学年 東海林 真

実施年月日：令和4年1月31日～2月4日 29名

### 1 実践計画・指導のねらい

レディネスチェックにおいて、税金と言えば「消費税」と思い浮かべる子どもがほとんどであることがわかった。今回の単元では、租税教室において、「消費税」の他にどんな税金の種類があるのか、そもそもなぜ税金を納めなければならないのか、税金の使い道は何なのかの3点について学ぶ。そして、国民に対してより公平によりたくさん税金を集めるにはどうすればよいかというテーマのもと、子どもたちが主体的に議論し合えるような課題を設定し、18歳で選挙権を持つ子どもたちが少しでも政治に関心を持ったり、これからの社会が抱える問題点をイメージしたりできるように、教科横断的な視点も含めて指導していく。

### 2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・租税教室を通して、税金について知る。 	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">税金はどのくらい種類があり、何のためにあるのでしょうか。</span> ● 自分たちの知らない税金の種類がたくさんある。 ● 税金がないと町がボロボロになったり勉強するのもお金がかかったりしてしまう。 □使用教材名 米沢市税務課係による租税教室 DVD
2	・税金をたくさん集める方法が3つある中で、国民に対してより公平によりたくさん税金を集める方法について考える。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あなたは、どの議員さんの意見を支持しますか?</span> Aさん (所得税推進派) → 所得の金額に応じて、税率を変える ● 稼ぎが少ない人に対して税率を下げれば、生活費にあまり負担がかからなくて済むと思う。 ● 少子高齢化に伴い人口が減少しているので、消費税だけでは安定して税金を取れないのではないか。 Bさん (消費税推進派) → 消費税を10%から12%にする ● AさんやCさんの意見だと、もうかっている人たちに不満が出そうだが、消費税はみな同じ税率なので不満が出ないと思う。 ● 税率がみな同じなので、平等であり、基本的人権の尊重にも合っていると思う。 Cさん (法人税推進派) → 会社の利益の額によって、税率を変える ● 景気がこれからよくなって税金がたくさん集められれば、その税金は国民に使われるわけだから、結果的に国民がみな平等でより豊かな暮らしが送れると思う。 ☆ 議論の後、「所得税」「消費税」「法人税」、いずれの集め方が現実的に行われていることを伝え、次時への意欲を持たせた。
3	・国の「歳入」について簡単に調べ、今後の未来では税金がどのように使われていくのか考える。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国の「歳入」の半分を占める「所得税」「消費税」「法人税」を使って、今後どのように税金を使っていくと思いますか?</span> ● 高齢化が進んでいるから、介護に使っていくべきだと思う。 ● 環境問題にも使っていくべきだと思う。 □使用教材名 副教材「日本の財政を考えよう」 副教材「暮らしの税情報」「これからの日本のために財政を考える」

#### 【指導のポイント】

##### ≪1時間目≫

租税教室を通して、動画やイラストを用いて税金についての知識を増やすことができた。税金のおかげで自分たちの生活が成り立っているということを理解することができた。

#### 【指導のポイント】

##### ≪2時間目≫

日本の歳入の半数を占める「所得税」「消費税」「法人税」について議論し合う中で、3つの税金の集め方や税率の違いによって、よりたくさんの税金を国民が納めやすい形で集めていることを理解できた。また、具体的な税率や今の社会問題を調べたり今まで習ったことを生かして考えたりすることもできた。

#### 【指導のポイント】

##### ≪3時間目≫

1学期に総合的な学習の時間でSDGsについて学んだ。それと今回の税金を組み合わせて、これからの課題に対して自分なりの意見をもつ児童が多かった。

### 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 「税金」について議論し合うことで、少しでも政治に関して興味をもったり主体的に考えたりすることができた。
- ◆ 3つの税について考える際、空想論や抽象論になってしまう場面があった。ただ、小学校6年生の段階で、具体的な数値や税率に踏み込んでしまうと理解に苦しんでしまうことも想像されるので、どこまで情報を与えればよいか難しかった。
- ◆ 米沢市の税金の使い方について触れると、さらに自分たちの身近に「税」を意識できたと思うので、今後への課題としたい。

(テーマ) 税金から未来の「まちづくり」を考える

三川町立東郷小学校教諭 6学年 佐々木 嘉彦

実施年月日：令和3年5月25日～31日 18名

1 実践計画・指導のねらい

そもそも税金とは何か、なぜ税金が必要なのか、税金にはどんな種類があるのか、身近なところではどのように税金が使われているのか、町でも税金を扱っているのか…。こうした子どもたちの問いを基にして、単元学習計画を作成した。税金という言葉を知っていても、身近なものとして捉えている児童は少なく、中には損得で考えている児童もいた。授業をする中で、税金についての知識やその使い方に関する理解を深められるように話し合う場面を多く取った。国民の三大義務の一つである「納税」。学習後も、納税者の一人として生きることの大切さを実感できるようなものにした。

2 単元構成・実際の指導状況 (単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導)

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・税金とは何か。また、税金の必要性について考える。 	○ <u>税金は、世の中に必要なものなのだろうか。</u> ● 税金がないと、世の中が大変なことになる。 ● 大人は、いろいろな税金を払っている。 ● 税金があることで町の建物を造ったり、無償で教科書をもたらしたりできる。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」
2	・住民の要望を実現するために税金が使われていること、税金にも種類があることを知る。	○ <u>税金には、どのようなものがあるのだろうか。</u> ● 消費税。買い物をする時に払っている。 ● 所得税。住民税。入湯税。酒税。 ● 住民の要望や暮らしの中で必要なものには、税金が使われる。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」 国税庁HP
3	・身近な税金である「消費税」について話し合い、自分の考えをまとめる。 	○ <u>「消費税の税率は、引き上げるべきか否か」</u> ● 日本の未来のために使うのだから、引き上げるべき。 ● 人口が減少しているから、税金も減るので引き上げた方がいい。 ● 幸せに暮らすためには、税率を引き上げることも必要。 ● 生活が苦しい人にとっては大変さが増すので、税率は引き上げない方がいいと思う □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」
4	・町の税金の歳入、歳出について理解し、今後の生活や「まちづくり」について考える。	○ <u>三川町はどのような「まちづくり」を目指しているのか。</u> ● 国から交付される地方交付税が歳入の約3割を占めている。 ● 民生費や教育費が多いので、福祉や教育に力を入れている。 ● 学校生活の中でも、たくさん税金が使われている。 ● テオトル (子育て交流施設) を建設したことから、子育てや地域交流を大切にしていることが分かる。 □使用教材名 三川町広報No. 770 (2021. 4月号)

【指導のポイント】 <<1時間目>>

税金がいかに大切なものであるか、税金がない世界を例にして考えを深めることができた。

【指導のポイント】 <<2時間目>>

税金の種類や使い方についての話し合いを通して、税金は直接税と間接税に分けられることや住民のために使われるものだという事に気付くことができた。

【指導のポイント】 <<3時間目>>

外国の消費税の税率と比較しながら、考えることができるようにした。現在だけでなく、将来にわたって大切なものだと気付くことができた。

【指導のポイント】 <<4時間目>>

町の広報誌を資料として扱い、身近な所で税金がどのように使われているのか「まちづくり」とつなげて考えることができた (総合的な学習の時間のテーマ)。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 身近な題材を扱うことで、税金が私たちの暮らしに密接に関わっていることや、なくてはならないものであることを理解することができた。
- ◎ 資料 (自治体の予算案が掲載されている町広報) を通して、税金が「まちづくり」に直結するものであること、住民の願いに寄り添い、実現するためのものであることを学ぶことができた。
- ◎ 予め、豊富な資料を送付していただき、授業づくりの面でも、児童が授業で考える上でも参考になった。
- ◆ 租税教室や外部の方々に話を聞くなど、「ホンモノ」にふれるような学習を計画することで、より学びが深まるのではないかと考えた。

# 山形県租税教育推進協議会名簿

令和3年12月

構成機関	代表幹事	
山形県教育委員会	教 育 長	菅 間 裕 晃
構成機関	幹 事	
山形県市町村教育委員会協議会	会 長 山形市教育委員会教育長	荒 澤 賢 雄
山形県市町村教育委員会協議会教育長会	会 長 山形市教育委員会教育長	荒 澤 賢 雄
山形県教育庁	義務教育課長	小 関 広 明
	高校教育課長	吉 田 直 史
山形県連合小学校長会	会 長 山形市立第四小学校長	日 高 伸 哉
山形県中学校長会	会 長 山形市立第一中学校長	新 野 彰
山形県高等学校長会	会 長 山形県立山形東高等学校長	須 貝 英 彦
山形県特別支援学校長会	会 長 山形県立村山特別支援学校長	岡 崎 祐 治
山形県教育センター	所 長	石 山 宣 浩
山形県私立中学高等学校協会	会 長 私立九里学園高等学校理事長・校長	九 里 廣 志
山形税務署	署 長	丸 岡 孝 樹
山形財務事務所	所 長	武 藤 英 一
山形県総務部税政課	税 政 課 長	山 田 英 樹
山形県みらい企画創造部市町村課	市 町 村 課 長	庄 司 雅 人
山形県市長会	会 長 山 形 市 長	佐 藤 孝 弘
山形県の市を代表する税務主管部	山形市財政部長	伊 藤 浩 之
山形県町村会	会 長 川 西 町 長	原 田 俊 二
山形県の町村を代表する税務主管課	川西町税務会計課長	有 坂 強 志
山形県納税推進協議会	会 長 山形県総務部税政課長	山 田 英 樹
東北税理士会山形県支部連合会	会 長	高 橋 龍 二
東北税理士会山形支部	支 部 長	高 梨 徹 也
一般社団法人山形県法人会連合会	会 長	鈴 木 吉 徳
公益社団法人山形法人会	会 長	鈴 木 吉 徳

所 属	専 門 部	
山形県教育庁義務教育課	指 導 主 事	島 貫 祐 樹
山形県教育庁高校教育課	指 導 主 事	石 黒 吉 寛
山形市教育委員会学校教育課	指 導 主 事	東 海 林 一 善
山形県教育庁生涯教育・学習振興課	課 長 補 佐	矢 作 誠
山形県教育センター	副 所 長	村 上 ゆかり
山形県教育庁義務教育課	課 長 補 佐	佐 藤 元
山形財務事務所	総 務 課 長	川 村 敏 彦
	企 画 係 長	堀 内 信 博
山形県総務部 税政課	主 査	板 垣 和 幸
	主 事	大 類 樹
山形市 財政部 市民税課	税 制 係 長	高 橋 圭 介
東北税理士会山形支部租税教育部	部 長	須 藤 雅 人
山形税務署	副 署 長	田 中 祥 勝
	税 務 広 報 広 聴 官	阿 部 里 美
	税 務 広 報 広 聴 官	元 木 陽 子



# 聞いてみよう 税の話。

## 租税教室のご案内

学校で開催する租税教室の講師派遣、児童・生徒さんによる税務署見学、租税に関する資料（DVD等）の貸出しなどのご要望は、最寄りの税務署の総務課までご連絡ください。

### 山形県内税務署

山形税務署	(023) 622-1611
米沢税務署	(0238) 22-6320
鶴岡税務署	(0235) 22-1401
酒田税務署	(0234) 33-1450
新庄税務署	(0233) 22-5111
寒河江税務署	(0237) 86-2244
村山税務署	(0237) 53-2151
長井税務署	(0238) 84-1810

### 租税教育関係ホームページ

国税庁HP「税の学習コーナー」・・・ **国税庁** で検索してください。

山形県税政課HP・・・・・・・・・・ **山形県税政課** で検索してください。

令和4年3月発行

発行者 山形県租税教育推進協議会

事務局：山形市大手町1-23（山形税務署内 税務広報広聴官）  
(023) 622-0788